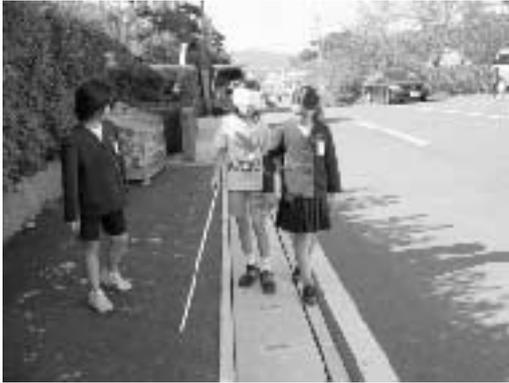


社会福祉協議会の事業報告

そだてよう福祉の心 ひろめよう福祉の輪



10月18日(木)には、アイマスクと車いすの疑似体験学習をしました。アイマスクでは、体育館からほのぼの館までを目隠した状態で白杖をもって、介助人と一緒に移動。「まわりが見えないことはとても怖かった」「いつもの距離よりも長く感じた」など、貴重な体験をしました。



車いす体験では、車いすの操作の仕方や介助の仕方を体験しました。実際に段差を超えてみたり、スロープを昇ったり降りたりして、「意外と車いすを自分で操作するのも、介助するのも力がある」ことを感じたようでした。

また車いすのまま、自動販売機でジュースが買えるか。公衆電話で電話がかけられるかなどの体験をとおして、バリアフリーについて学習しました。



10月5日(金)は、障がいについての学習会をしました。「身体障がい者はスポーツはできるのですか?」「盲導犬はどこで訓練しているのですか? 主人の行きたい場所は分かっているのですか?」「盲人用ワープロとはどんなものですか?」「車いすはどこに売っているのですか?」など、障がいについての質問がいっぱい!

みな、一生懸命に勉強しています。



10月23日(火)には、視覚障がいをもっている椿原真理子さんをお招きして、これまでの生い立ちや体験談をお話いただきました。

点字の絵本を読んでみせるところや、実際に点字をうってみせる場面では、子どもたちは目を輝かせ、食い入るように見ていました。



伊方小学校4年生、障がい者体験学習

方城地区の伊方小学校4年生(50名)が、総合学習の時間に障がいについて学習しました。社会福祉協議会では、授業をバックアップし、車いすやアイマスクの体験、視覚障がい者との交流、朗読ボランティアの体験などを支援しました。

町内の視覚障がい者を支援するボランティア団体「青い鳥」のご協力のもと、朗読CDの作成にチャレンジしました。福祉のボランティアに関心をもってもらえたかな?